



普及活動標語

思いを形にあなたのチャレンジ支えます。  
応援します。農業普及

# みやぎの 12月号

## 農業普及現場

NEWS LETTER No.190 2022.12

紹介内容 (11/1~11/30)

### 1. みやぎの農業を担う次代の人材育成と革新技術の活用等による生産基盤の強化

- ① 先進的経営体等の育成及び経営の安定化・高度化支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
  - 気仙沼農改：宮城県農林産物品評会及び花き品評会で気仙沼管内の生産者3人が入賞しました
  - 仙台農改：仙台農業士会第2回研修会が開催されました
  
- ② 新たな担い手の確保・育成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
  - 仙台農改：みやぎ農業未来塾「先進事例視察会」を開催しました
  - 栗原農改：女性農業者のための農作業安全基礎研修会を開催しました
  
- ④ 園芸産地の育成・強化支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
  - 大崎農改：令和4年度宮城県農林産物品評会及び花き品評会で、管内の生産者が入賞しました
  - 石巻農改：施設なす仕立ての視察を行いました
  - 登米農改：米山いちご部会の現地検討会が開催されました
  - 栗原農改：加工用ばれいしょ栽培振り返り会を開催しました
  - 登米農改：JAみやぎ登米寒締め野菜部会現地検討会が開催されました
  - 大河原農改：サツマイモの出荷規格目揃え会を開催
  - 亘理農改：「なとり・ぐるっと親子講座せり収穫体験」が開催されました
  - 石巻農改：令和4年度宮城県農林産物品評会の野菜部門で農林水産大臣賞受賞をした後藤氏（東松島市）が東松島市長へ表敬訪問しました！
  - 登米農改：JAみやぎ登米胡瓜部会青年部視察研修会が開催されました
  - 仙台農改：仙台東部地区に女性農業者が経営するイチゴ栽培用鉄骨ハウスが完成
  - 石巻農改：アスパラガス栽培管理勉強会（黄化刈取り編）の開催
  - 登米農改：JAみやぎ登米胡瓜部会 促成胡瓜品種説明会および病害虫講習会が開催されました
  - 石巻農改：河北せりの現地検討会が開催されました！
  
- ⑤ 収益性の高い水田農業・畜産経営の展開支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
  - 栗原農改：水稻種子の生産物審査が行われています
  - 大崎農改：大豆種子ほ場審査を行いました
  - 登米農改：令和4年度大豆圃場巡回指導会が開催されました
  - 大崎農改：そばの栽培講習会が開催されました
  - 仙台農改：農地整備事業予定地区で土壌調査を実施しました
  
- ⑥ 時代のニーズに対応した農畜産物の安定供給支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
  - 石巻農改：大豆採種ほ場の審査を実施しました
  
- ⑦ 地域資源の活用等による地域農業の維持・発展・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
  - 仙台農改：仙台市秋保野尻地区でにんにくの植付が行われました

- 登 米農改：登米市沢田集落において鳥獣害対策の効果を確認しました
- ⑨ 大規模自然災害等からの復旧・復興・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
  - 石 巻農改：(株)宮城リスタ大川にて肥料についての勉強会を開催しました！
- ⑩ 要請・緊急対策、その他・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
  - 大河原農改：農林水産省の農村研修を実施しました

## 1. 人材育成・生産基盤の強化

### ①先進的経営体等の育成及び経営の安定化・高度化支援

#### ○宮城県農林産物品評会及び花き品評会で気仙沼管内の生産者3人が入賞しました 令和4年11月1日 気仙沼農業改良普及センター

令和4年10月22日（土）～23日（日）、宮城県農林産物品評会及び花き品評会がせんだい農業園芸センターを会場に開催され、管内からは合計18点（玄米5点、野菜5点、花き8点）が出品されました。

前日の21日（金）に水稻、果実、野菜及び花き部門の審査が行われ、管内では下記の3点が入賞を果たしました。生産者の技術力の高さと日々の努力が報われた結果となりました。

受賞された皆様、大変おめでとうございます。出品に御協力いただいた皆様、ありがとうございました。

金賞（宮城県園芸協会会長理事賞，株式会社仙花代表取締役社長賞）  
輪ぎく 及川誠司さん（南三陸町）



銀賞  
輪ぎく 遠藤吉司さん（南三陸町）  
シクラメン 齋藤正博さん（気仙沼市）



#### ○仙台農業士会第2回研修会が開催されました 令和4年11月17日 仙台農業改良普及センター

令和4年度仙台農業士会第2回研修会が令和4年11月9日に福島県で開催され、管内指導農業士7名が出席しました。

研修内容は、「いいたて雪っ娘かぼちゃプロジェクト協議会」の渡邊とみ子会長を訪問し、特産品づくり等による地域活性化への取組について講義を受けました。

かぼちゃ品種「いいたて雪っ娘」の育種者の思いに共感し、知名度向上のためのイベント開催や仲間と立ち上げた加工所「までい工房美彩恋人（びさいれんと）」の取組、東日本大震災による原発事故後の対応など、あきらめないで続けることの大切さを教えていただきました。

また、講義の後に渡邊氏による自家農産物を使ったお弁当について食材や調理方法の説明を受けながら弁当をいただき、大変手間がかかっていることを実感しました。その後、渡邊氏の自宅加工場や福島県内の2か所の直売所を視察しました。

参加した農業士の方々は、渡邊氏の取組に感銘を受け、活発な意見交換を行うとともに「活力をもらった」と話しており、有意義な研修会となりました。



### ②新たな担い手の確保・育成

#### ○みやぎ農業未来塾「先進事例視察会」を開催しました 令和4年11月8日 仙台農業改良普及センター



令和4年10月31日に、仙台農業改良普及センター管内の若手農業者を対象に、みやぎ農業未来塾「先進事例視察会」を開催しました。

今回の研修会は、県外の優れた農業者の経営を学ぶことを目的に、秋田県大仙市の神宮寺観光果樹園の高橋徹氏とエルベイ養蜂園のピラフジュ・ドウルムシュ氏（トルコ出身）2名方を現地視察しました。神宮寺観光果樹園は、さくらんぼ、ブルーベリー、



ぶどう、栗、シイタケ、なめこなどを栽培するほか、いぶりがっこの製造販売や農家民宿を併設するなど多角経営をしています。エルベイ養蜂園は、農薬の影響を受けにくい蜜源で採蜜するなど、こだわりの養蜂経営をしています。

お二人のお話は、果樹栽培や養蜂に関する技術的なことだけでなく、地域での新規就農者募集活動や、経営展開していく上での心構えなどにも及び、参加した若手農業者は大変刺激を受けた様子でした。

仙台農業改良普及センターでは、これからも様々な研修機会を通して、青年農業者を支援していきます。



#### ○女性農業者のための農作業安全基礎研修会を開催しました

令和4年11月24日

栗原農業改良普及センター



令和4年11月11日、新みやぎ農業協同組合一迫営農センターで、「女性農業者のための農作業安全基礎研修会」を開催しました。

当日は、農作業安全に関する基礎知識を学ぶとともに、安全な農機具（刈払機）の使い方及び点検整備等を体験し、習得することを目的に、管内女性農業者7名が参加しました。

はじめに、丸山製作所 南東北営業所 所長 杉野寛樹氏より、「農作業安全の基礎知識について」と題して、刈払機や刈刃の種類、作業を安全に行うための注意点等について講義をいただきました。

続いて、講義での内容を踏まえて、刈払機の使い方、メンテナンス方法について実演いただいた後、参加者全員が刈払機の操作実習を行いました。

刈払機を使うのが初めてだった参加者からは、「これなら私にもできそう。これを機に今後実践してい

きたい。」「1つ1つ丁寧に指導してもらい、とても勉強になった。」等の感想が聞かれました。また、メンテナンス方法の実演においては、「はじめて知った。家の人にも教えたい。」等の声が聞かれ、刈払機の使い方及び点検整備等について再確認することができたようでした。

普及センターでは、今後も研修会等を通じ、女性農業者の資質向上や働きやすい環境整備を支援していきます。



#### ④園芸産地の育成・強化支援

#### ○令和4年度宮城県農林産物品評会及び花き品評会で、管内の生産者が入賞しました

令和4年11月1日

大崎農業改良普及センター

令和4年10月22、23日に、令和4年度宮城県農林産物品評会・花き品評会がせんだい農業園芸センタ



ーで開催されました。

大崎農業改良普及センター管内では、以下の通り、野菜部門と花き品評会で入賞しました。受賞された皆様、おめでとうございます！

○宮城県農林産物品評会

【野菜（葉茎菜類）部門】

宮城県知事賞（2等）

ほうれんそう 片倉 明広さん（色麻町）



○宮城県花き品評会

銀賞 ビオラ

株式会社宮城フラワーパートナーズ（加美町）



○施設なす仕立ての視察を行いました。

令和4年11月1日

石巻農業改良普及センター



令和4年10月20日（木）に施設なすを導入して間もない農業法人や新規就農者の栽培技術向上のため、

農業・園芸総合研究所の施設なすほ場で視察研修を行いました。

農業・園芸総合研究所では、施設なすの省力化に向けた栽培方法の研究を行っており、研究員より仕立て方を中心に収量、果実品質や作業内容などについて説明を受けました。

参加者は、省力化に向けて、それぞれの栽培環境でより良い仕立て方を考え、情報交換を行っていました。

普及センターでは、今後もほ場の巡回等を行いながら、高品質ななす生産を目指して技術指導を行ってまいります。

○米山いちご部会の現地検討会が開催されました

令和4年11月2日

登米農業改良普及センター



令和4年10月20日に、JAみやぎ登米米山いちご部会の現地検討会が開催され、部会員8名が参加しました。

講師に宮城県農業・園芸総合研究所の研究員を迎え、現在の栽培状況と今後の管理について現地検討を行いました。目立った病害虫の発生がないことや、厳冬期に備えハウス内への冷気の流入がないかを確認しました。講師からは、第二果房の花芽分化を誘導するための管理や注意点などについて説明がありました。

いちごは11月末から翌春まで出荷が続きます。今作も登米市米山産の美味しいいちごが期待されます。

○加工用ばれいしょ栽培振り返り会を開催しました

令和4年11月8日

栗原農業改良普及センター

令和4年10月28日（金）、迫川上流土地改良区2階会議室を会場として、「加工用ばれいしょ栽培振り返り会」を開催しました。

今回は、令和4年産加工用ばれいしょの栽培を振り返り、改善点を関係者で共有することで次作の収量及び品質向上につなげることを目的とし、管内のばれいしょ生産者、カルビーポテト株式会社の担当者のほか、関係機関の担当者が出席しました。

普及センターからは、生育及び収量調査結果、次作に向けた栽培のポイントを説明しました。カルビーポテト株式会社からは、他産地共通の栽培上の留意

点について説明がありました。

生産者は今年の栽培を振り返り、成果や課題が整理されたことで、次作への改善意欲が高まった様子でした。

当普及センターでは、ばれいしょの栽培技術向上と、高収益作物としてのばれいしょ導入検討に向け、今後も継続して支援していきます。



**○JAみやぎ登米寒締め野菜部会現地検討会が開催されました**  
令和4年11月11日  
登米農業改良普及センター



令和4年11月8日に登米市豊里町でJAみやぎ登米寒締め野菜部会現地検討会が開催され、部会員15名が参加しました。

現地検討ではちぢみほうれんそう及びちぢみゆきな圃場各1か所を巡回し、生育や今後の防除などについて意見交換と確認を行いました。普及センターからは、有機農業や肥料高騰対策についての事業や、農作業安全に関する情報提供を行いました。

寒締め野菜は、今後厳しくなる寒さに当たると葉の厚みと甘みが増していきます。今年も登米産のおいしい寒締め野菜に御期待ください。

**○サツマイモの出荷規格目揃え会を開催**  
令和4年11月16日  
大河原農業改良普及センター

川崎町の農事組合法人ふるせきファームでは、高収益作物としてサツマイモの生産に取り組んでいます。今回は初めての取引先である山元町の株式会社

やまもとファームみらい野を訪問し、収穫物を持ち込み出荷規格について説明を受けました。これにより、同法人は選別作業のイメージが湧き、今後の出荷に向けて意欲が高まりました。

近年、西日本の国内主産地ではサツマイモ基腐病の蔓延などにより、作付が激減しており、宮城県産サツマイモのニーズが高まっています。

普及センターでは、引き続き需要に応じたサツマイモの安定生産に向けて、技術支援に努めてまいります。



**○「なとり・ぐるっと親子講座せり収穫体験」が開催されました**  
令和4年11月16日  
巨理農業改良普及センター



名取市地域農産物等消費拡大推進協議会（事務局：名取市農林水産課）が主催する「なとり・ぐるっと親子講座せり収穫体験」が令和4年11月12日に開催され、運営支援のために出席しました。

「なとり・ぐるっと親子講座」は、年間全5回の講座で、これまで田植え、フラワーアレンジメント、夏野菜収穫、稲刈りの4講座を開催しており、今回が最終講座となりました。

当日は、秋晴れの中、参加した17家族60人の親子が「せり」の収穫や洗浄・調制作業を体験しました。講師を務めた生産者から栽培の苦労や名取市でせりが栽培された歴史などを学びました。

参加者からは「胴長を着て、水に浸かりながらの作業は大変ですね。腰が痛くなりませんか。」などの声が聞かれ栽培の苦労を実感したようでした。

また、生産者からは「「仙台せり」を鍋物などで美味しく召し上がってください。」と一言ありました。

参加者は、全5回の「なとり・ぐるっと親子講座」を通し、名取市の農業をより身近に感じ、地元の農産物について理解を深めた様子でした。



普及センターとしても、地元の農業への理解を深める取組を支援し、名取市の特産品のファンが一人でも多く増えるよう努めていきます。

**○令和4年度宮城県農林産物品評会の野菜部門で農林水産大臣賞受賞をした後藤氏が東松島市長へ表敬訪問しました**  
令和4年 11月 17日  
石巻農業改良普及センター



令和4年11月14日(月)に、令和4年度宮城県農林産物品評会野菜部門で農林水産大臣賞を受賞された、東松島市の後藤喜久雄氏が東松島市の渥美巖市長を表敬訪問しました。

本品評会は、宮城県が主催し、農業者の生産意欲の高揚と生産技術の向上を図り、農林産物の生産振興に寄与することを目的に、10月22日、23日に「せんだい農業園芸センター」で開催されました。

後藤氏はJAいしのまきの営農指導員として、長年地域の園芸生産指導に従事する傍ら、自身も兼業農家として主に長ねぎの生産を続けてきました。JA勤務時には、当時の普及指導員の現地指導の際に、共に活動する場面も多くありました。

今回、8度目の出品で念願の第1席の農林水産大臣賞を受賞されました。石巻管内は秋冬ねぎの野菜指定産地となっており、JAいしのまき長葱部会副部会長の務める同氏の受賞で、当産地の技術研さんの機運がより一層高まることが期待されます。

普及センターでは引き続き、高品質で安定したねぎ生産に向け、支援を行ってまいります。

**○JAみやぎ登米胡瓜部会青年部視察研修会が開催されました**  
令和4年 11月 17日  
登米農業改良普及センター

令和4年11月14日に、JAみやぎ登米胡瓜部会青年部員10名が福島県福島市の農業法人株式会社エースアグリエイトを訪問し、視察研修を行いました。

視察研修では、摘芯栽培とつる下ろし栽培の2種類の栽培体系を見学し、管理方法や病害虫対策、暖房用ダクトの設置方法などについて、活発な質疑応答が行われました。また、環境測定機器や炭酸ガス発生装置を用いた環境制御について、取り組みや収量などについての実例を学び、自身の栽培にどのように取り入れられるかなど様々な意見交換が行われました。

普及センターでは、新たな技術や設備を取り入れた栽培にチャレンジする農業者に対して、今後とも支援を行ってまいります。



**○仙台東部地区に女性農業者が経営するイチゴ栽培用鉄骨ハウスが完成！**  
令和4年 11月 17日  
仙台農業改良普及センター



仙台市七郷地区に、女性農業者が代表を務める「株式会社 Punks Farmer (早坂亜由美代表取締役)」のイチゴ栽培用鉄骨ハウスが完成し、令和4年11月8日に各関係機関等が参加のもと、盛大に竣工式が開催されました。

今回竣工されたイチゴハウスは、令和4年度みやぎの企業的園芸等整備モデル事業を活用しており、最新の環境制御システムを装備しています。早坂代表は、「誰もがココロ躍ることを仕事にできる社会の実現」を目標に掲げ、山元町でのイチゴの技術研修等準備期間を経て、完成にこぎつけました。

早坂代表の取組は、園芸振興だけでなく、地域全体の活性化の実現、そしてこれからの新規就農者や女性農業者にとって大いに励みとなるもので、今後の

活躍が期待されます。

今後も、普及センターでは、環境制御システムを備えた施設の技術支援等を行ってまいります。

### ○アスパラガス栽培管理勉強会(黄化刈取り編)の開催 令和4年 11月 21日 石巻農業改良普及センター

11月15日にパイオニアエコサイエンス株式会社松永邦則氏を講師として、東松島市でアスパラガス栽培管理勉強会(黄化刈取り編)を開催しました。

松永氏はアスパラガスのハウス栽培の場合、①養分の転流は最低気温が10℃以下となる10月下旬から始まるので、12月下旬まで乾いたら軽く灌水する。②茎葉が黄化したら草刈り機等で茎を切り、ネットから抜いて片付ける。③擬葉等残渣はバーナーで焼き、完熟堆肥をマルチして2月下旬まで換気する。④土壌分析に基づいて基肥を施用し、必要に応じて殺菌剤や殺虫剤を散布する。⑤3月に保温を始め水点下にならないよう管理し、3月下旬から9月まで収穫するなど、冬越しのポイントを指導していただきました。

アスパラガスのハウス栽培の増設や新たに取り組みたい生産者は、株分けや堆肥の施用方法など熱心に質問や情報交換を行い、有意義な研修となりました。



### ○JAみやぎ登米胡瓜部会 促成胡瓜品種説明会 及び病害虫講習会が開催されました 令和4年 11月 28日 登米農業改良普及センター

令和4年11月22日に、JAみやぎ登米胡瓜部会 促成胡瓜品種説明会および病害虫講習会が開催され、部会員約40名が参加しました。

品種説明会では、株式会社ときわ研究場および株式会社埼玉原種育成会より、品種それぞれが持つ特性や、適正な環境・管理について説明がありました。

その後、宮城県農業・園芸総合研究所 環境部病害チームの職員を講師に、病害虫講習会が行われました。講師からは、きゅうりが急に萎れたり枯れたりしてしまう症状の原因となる病気や、ウイルス病などについて特徴や対処法の解説がありました。参加者は熱心に講習を受け、講習の後には、効果的な土壌消毒の方法やワクチン苗についてなど、様々な質問が

出されていました。

きゅうりの促成作は来年2月から本格的に始まり、3月中下旬には収穫を迎え、6月末まで収穫が続きます。普及センターでは、今後ともきゅうり産地活性化のため支援を行ってまいります。



### ○河北せりの現地検討会が開催されました！ 令和4年 11月 29日 石巻農業改良普及センター



令和4年11月1日にJAいしのまきせり部会の現地検討会が開催されました。石巻市河北地区で生産されるせりは「河北せり」として、青果物では県内初のGI登録も行なわれています。

現地検討会には部会員9人が参加し、各ほ場を巡回しながら現在生育中の冬せりの栽培管理、病害虫管理について検討を行いました。せりほ場の生育は順調であり、病害虫防除が適切に行われていました。



せり部会では10月から出荷が始まっており、今後出荷の最盛期となる12月に向けて品質の良いせりを栽培するための病害虫管理について助言を行な



いました。

普及センターでは今後も、ほ場の巡回等を行いながら、良質なせり生産を目指して技術指導を行っています。

## ⑤収益性の高い水田農業・畜産経営の展開支援

### ○水稲種子の生産物審査が行われています 令和4年 11月 1日 栗原農業改良普及センター



栗原管内には一迫、金成末野の2つの水稲採種組合があり、県の水稲優良品種の種子生産が行われています。県の主要農作物種子条例に基づき、普及センターでは、ほ場審査と生産物審査を行っており、審査に合格した種子が流通する仕組みとなっています。

今年は、9月上旬から採種ほの稲刈りが始まり、刈取った種子もみは種子センターで乾燥、調製、袋詰め作業が行われました。

生産物審査では、普及センター職員が種子もみを目視で確認し、異品種、雑草種子や病虫害の混入がないかどうか審査を行っています。同時に、種子もみが正常に発芽するかどうか確認する発芽試験も行っています。審査はおおむね順調に進んでおり、11月中旬頃まで続く見込みです。

普及センターでは、優良な種子生産が行われよう、引き続き種子生産者への支援を行います。



### ○大豆種子ほ場審査を行いました 令和4年 11月 4日 大崎農業改良普及センター

令和4年10月21日・31日に、大豆の種子を生産する「採種ほ」のほ場審査を行いました。県は

「主要農作物種子条例」に基づく種子審査について、ほ場での審査と収穫された生産物の審査の2種類の方法で行っています。

大豆のほ場審査は第一期が開花期、第二期が成熟期に実施されます。主な審査内容は、①異種・異品種・変異株を含まないこと、②種子伝染性の病虫害を含まないこと、③雑草が少発生であること等です。

今回の第二期審査では、普及センターの担当者が、ほ場の周囲を回りながら審査を行いました。今年は、7月の大雨で大豆が枯死したほ場や一部雑草の発生が散見されたほ場がありましたが、ほとんどのほ場で合格基準を満たす結果となりました。

採種ほ場から生産される「たね」は、多くの農家に供給され、次年度作に使用されるので、種子生産は大変重要です。普及センターでは、優良な種子生産に向けて引き続き支援を行っています。



### ○令和4年度大豆圃場巡回指導会が開催されました 令和4年 11月 16日 登米農業改良普及センター



令和4年11月7日、JAみやぎ登米豊里営農経済センター主催の大豆圃場巡回指導会が開催され、豊里地区の大豆生産者13名が参加しました。

指導会では、生産者の大豆栽培ほ場6カ所を巡回し、茎の剥皮（茎の皮を爪でどの程度剥ぐことができるか）や黒斑の状況、穀粒水分といった収穫の目安となる指標について調査し、収穫時期の検討を行いました。

巡回したほ場6カ所は、茎の剥皮や黒斑状況の草姿は収穫適期に達しており、穀粒水分も13%前後であることから、速やかに収穫作業を行うよう指導しました。

普及センターでは、今後も大豆の品質向上、安定生産に向けた支援を継続していきます。

### ○そばの栽培講習会が開催されました 令和4年 11月 29日 大崎農業改良普及センター



大崎普及センター管内では、大崎市鳴子・鬼首、加美町中新田地区を中心にそばの栽培が行われています。10月から11月にかけては、秋そばの収穫期を迎え、今年も新そばの季節となりました。

令和4年11月16日には、加美町の農事組合法人下多田川営農組合において、そばの栽培講習会が開催されました。普及センターからは、最も重要な技術対策であるほ場の排水対策を中心に、雑草防除や適期収穫など栽培の基本技術について説明を行いました。その後、令和4年産の栽培を振り返りながら、次年度以降の栽培に向けて意見交換を行いました。生産者からは、「排水対策として、補助暗きよや耕盤破砕能力のある緑肥の検討を行いたい」、「土壌分析を行い、最適な土づくりや施肥を実践していきたい」など積極的な意見が出され、栽培技術のさらなる向上が期待されます。

普及センターでは、そばの高品質・安定生産に向け引き続き支援をしていきます。また、大崎市、加美町で生産されたそばをぜひ味わっていただきたいと思えます。

### ○農地整備事業予定地区で土壌調査を実施しました 令和4年 11月 30日 仙台農業改良普及センター

黒川郡大和町吉田金取北地区では、農地整備事業（受益面積62ha）が予定されています。令和4年11月22日、当地区において、仙台地方振興事務所農業農村整備部による土壌調査が行われ、普及センターでも調査に協力しました。この調査は、作物の生育に影響する土壌の特質を調査し、生育の阻害要因に対する改良方策を明らかにするために行われるものです。

今回は、あらかじめ決められた82地点のほ場で、地元の推進委員等が長さ1mの検土杖を使って土壌を採取しました。その後、地元の公民館に運び、待機している農業農村整備部と普及センターの職員が指で土を触り、土の性質や色等を診断しました。土壌採

取では、検土杖が深く刺さらず苦勞されたところもありましたが、順調に作業が進み、予定時間内に無事終了しました。

今後は、今回の調査結果を元に試坑調査が行われる予定で、普及センターでは引き続き調査に協力していきます。



### ⑥時代のニーズに対応した農畜産物の安定供給支援

### ○大豆採種ほ場の審査を実施しました！ 令和4年 11月 15日 石巻農業改良普及センター

令和4年10月24～26日にかけて、大豆の採種ほ場の第二期（成熟期）ほ場審査を行いました。石巻管内では、今年度約40haで7法人が「タンレイ」、「タチナガハ」、「ミヤギシロメ」の3品種の種子生産を行っています。今回の審査では、異品種の混入や基準値以上の雑草や病害虫の被害は確認されず、全ほ場が合格となりました。今後は、収穫時に、一部のほ場で散見された青立ち株や土の巻き込みによる汚粒の発生を防止するようにと指導を行いました。今年は7月中旬に記録的な大雨があったため、採種ほ場でも、湿害の影響により、莢数や粒重が減少して減収すると予想されています。次年度の作付けに向けて、良質な種子が少しでも多く確保できることを期待しています。石巻管内での大豆の収穫は、11月中旬から下旬に始まる予定です。





## **⑦地域資源の活用等による地域農業の維持・発展**

### **○仙台市秋保野尻地区でニンニクの植え付けが行われました**

令和4年 11月 7日

仙台農業改良普及センター

仙台市秋保野尻地区（以下：野尻地区）では、仙台市農業法人等収益向上支援事業を活用し、長ねぎとにんにくの栽培に取り組んでいます。この2品目については、当地区で進められている農地中間管理機構関連農地整備事業の高収益作物として栽培される計画にもなっています。長ねぎについては、10月9日に収穫体験を行うとともに、順調に販売を伸ばしています。

にんにくについては、2作目の植付作業を10月30日に行いました。今回は、前作の試験栽培結果や産地である青森県等への視察研修で学んだことを活かし、栽培ほ場の入れ替えや施肥設計を見直すなどの改善が見られました。近隣の山々は、紅葉が見ごろとなりましたが、この自然豊かな畑で立派に生育し、来年6月下旬の収穫を迎えられることを期待します。

普及センターでは、今後も野尻地区の高収益作物栽培を支援してまいります。



### **○登米市沢田集落において鳥獣害対策の効果を確認しました**

令和4年 11月 15日

登米農業改良普及センター



登米市津山町柳津にある沢田集落では約20年前から棚田を利用したとうもろこし栽培を行っていますが、近年、ニホンジカやカモシカ、タヌキ等による被害が深刻化していました。そこで今年度、鳥獣被害防止総合対策交付金を活用し、集落の棚田に総延長が2

kmにおよぶ電気柵を設置したところ、シカによる大きな被害はなく、対策の効果を確認することができました。

また、令和4年11月7日に作物収穫後の電気柵の管理について、普及センターによる現地指導を行いました。電気柵を全て回収することは労力的に難しいとの意見があったため、電線だけを外す省力的な方法や電線を設置した状態で通電し続ける方法を提案し、集落で検討してもらおうこととしました。なお、最近では集落の近隣でイノシシの出没情報もあることから、さらに対策を強化していきたいとのことでした。今後も普及センターでは、効果的な電気柵の設置方法等、鳥獣害対策についてサポートしていきます。

## **⑨大規自然災害等からの復旧・復興**

### **○(株)宮城リスタ大川にて肥料についての勉強会を開催しました**

令和4年 11月 30日

石巻農業改良普及センター

令和4年11月15日に堆肥と土づくりに関する勉強会を開催しました。これは当普及センターのプロジェクト活動の一環で企画され、プロジェクトの対象法人である(株)宮城リスタ大川社員7人、JAいしのみまき職員等が参加しました。

勉強会では同法人に設置している堆肥実証ほの収量調査結果を説明し、土づくりの観点からバランスの良い肥料体系を紹介しました。その後、堆肥と土づくりに関しては肥料の三要素から化学肥料と堆肥の肥効の出方の違いや成分計算の方法について、社員への質問・出題を織り交ぜながら講義を行いました。

同法人は復旧農地において堆肥を用いた土づくりを進めており、代表取締役の大槻氏は「地力の低い長面では、肥料としてよりも土壌改良効果を期待して堆肥を施用し、地力の高い農地を目指したい」と今後の方針を話していました。

当普及センターは、これからも復旧農地の担い手への栽培技術支援を行ってまいります。



## ⑩要請・緊急対策、その他

### ○農林水産省の農村研修を実施しました 令和4年11月14日 大河原農業改良普及センター

農林水産省の若手職員が参加する農村研修が3年ぶりに再開され、今年度、管内では10/12～11/8までの約1か月間、2名の職員が果樹農家等で研修を行いました。

この研修は、若手職員が、農林漁業の現場において農林漁業を直接経験することにより、現場の実態に即した政策の企画・立案ができる人材を養成することを目的として、昭和42年にスタートしたそうです。

研修では、主に蔵王町内の果樹農家で日本ナシや洋ナシの収穫、選別、箱詰めなどの農業の現場を体験していただきました。

また、酪農が盛んな地域であることから酪農家やチーズやヨーグルトなど6次産業に取り組む経営体にも訪問し、これまでの経緯や課題などについても見聞しました。

その他、蔵王町以外の地域にも訪問し、集落営農組織の代表者や廃校活用による集客事業を行っている民間企業、露地野菜で新規就農を目指す若い方々との意見交換、丸森町に訪れていたザンビアの研修生との交流なども行いました。

普及センターでは、町役場や受け入れ農家さんの協力のもと宿泊先の検討や上述の研修日程を組み立て・日程調整等を行いました。また、普及センター若手職員の交流の機会を設け中山間地域の活性化などについて意見交換するなど国と県との相互理解を深めました。



果樹選果場で関係者と一緒の様子



イチゴハウスを訪問



県の若手職員との意見交換



普及指導員が県内9か所の普及センターで、農業者を支援しています。

<大河原>  
〒989-1243  
大河原町字南 129-1  
TEL:0224-53-3519

<亘理>  
〒989-2301  
亘理町逢隈中泉字本木9  
TEL:0223-34-1141

<仙台>  
〒981-0914  
仙台市青葉区堤通雨宮町4-17  
TEL:022-275-8320

<大崎>  
〒989-6117  
大崎市古川旭四丁目1-1  
TEL:0229-91-0727

<美里>  
〒987-0005  
美里町北浦字笹館5  
TEL:0229-32-3115

<栗原>  
〒987-2251  
栗原市築館藤木5-1  
TEL:0228-22-9404

<登米>  
〒987-0511  
登米市迫町佐沼字西佐沼 150-5  
TEL:0220-22-8603

<石巻>  
〒986-0850  
石巻市あゆみ野5-7  
TEL:0225-95-7612

<気仙沼>  
〒988-0181  
気仙沼市赤岩杉ノ沢 47-6  
TEL:0226-25-8068



**\*各農業改良普及センターには、「地域の食と農の相談窓口」を設置しております。食や農に関して知りたいことがありましたら、上記連絡先にお問い合わせください。**

みやぎの農業普及現場 NEWS LETTER No.190

発行日:2022年12月16日

発行:宮城県農政部農業振興課

編集:宮城県農政部農業振興課普及支援班

TEL:022-211-2837 FAX:022-211-2839

E-mail : gbfs@pref.miyagi.lg.jp